

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1
熊本大学大学院生命科学研究所
公衆衛生学分野
TEL (096) 373-5112
FAX (096) 373-5113

発行責任者：地方会長 加藤 貴彦

(題字：倉恒匡徳筆)

巻頭言

産業医学・産業保健におけるデータ活用と サービス提供力の向上

産業医科大学 学長 東 敏 昭



本年 4 月より産業医科大学学長に就任いたしました。産業医科大学では昭和63年から平成23年まで23年間勤務し、任期制を利用して3年前に退職、その後、近隣のデンソー北九州製作所に常勤の産業医として勤務しました。産業医科大学では外部委員を含む学長選考委員会を組織して、委員

の推薦により名前の挙がった候補者から3名を絞り込み、この時点で候補者の意向を確認の上、最終的に委員会で選出を行う「学長選出プロセス」をもっています。これは、最近法制化という形や経済同友会の提言として伝えられる大学の統治のあり方に関わる改訂の内容とは適合した方式となります。学内の教学の利益代表ではない運営が求められる時代になっています。ともあれ、意を新たにして、有難い機会をいただいたことに感謝し、職務に取り組んでいきたいと思えます。産業医科大学が日本産業衛生学会の会員とともに、日本ならびに世界の働く人の健康の保持・増進につながる産業医学・産業保健分野の研究、実務力の向上に寄与できるよう努力したいと思っています。

さて、現在、健康関連分野でのビッグデータの活用議論が関係各所にて行われています。産業保健分野では健診大国と呼ばれ、国民皆保険制度を有する日本が優位性をもつ分野であることは間違いありません。予防医学の分野では、健康寿命を指標として、個人の職業を含む環境、生活習慣、嗜好、健診データ、受診状況などの情報および結果系である疾病り患状況、職域では休業日数、職務制限による労働生産性との関係や、健康保険情報との組み合わせによって、医療費との関係解析も諸種の条件を整えば可能となることが期待されます。産業保健サービスでは、各種健康診断の意義評価、壮年期までの健康管理、健康教育、健康習慣の獲得に関わる「介入」の有効性が評価につながります。サー

ビス提供側にとっての目的と意義は、有効かつ合理性の高いサービス提供を行うための基本情報処理であり、顧客満足度を高める方策にもなります。個人情報の目的外使用にあたるのではないかとといった情報の管理・保全責任上の課題、誤差を含む解析結果への責任などの課題はあるものの、日本の産業保健・産業医学の真価が問われ、また、企業内の産業保健部門、健康保険組合、健診機関の力の見せどころでもあります。

個人ごとの生活習慣、嗜好、健康診断結果などのデータの連続性を確保し、疾病り患状況、死亡年齢・原因などの生涯にわたるデータを解析できることが望ましいのですが、この連続性の確保はのりこえなければならない課題です。大手企業でも健康診断の外注化が進み、全衛連などに属する大手健康診断機関（企業外労働衛生機関）には主要なデータを収集する能力として、医療情報を扱える機関としての人材と実績を有するものとしての期待が集まります。大規模な健康保険組合と会員企業とのコラボレーションへの期待も同様です。今後はデータの発生から産業保健関連サービスの提供までの全過程をカバーする連携を進め、データの解析力とサービス企画力を備えた総合サービスが提供されることが望まれます。また、個人の健康関連データを生涯にわたって保持、活用するためには、地域、学校、職域、地域の各時代をつなぐ必要があり、機関間のアライアンス、個人認証によってアクセスできる総合情報バンク（センター）、あるいは個人が媒体あるいは預ける形でデータを持ち運ぶことも視野に入れる時代になるかもしれません。マイナンバーによる個人の特定、検査結果などのデータの精度と標準化も重要で、様々な課題がありますがクラウドコンピューティングの中での活用が当たり前になる可能性が高いと思います。

データの活用では、正常値、推奨値、基準値、目標値が錯綜しています。予防行為の推奨や「腹に落ちる」健康教育においても個人の状況にあった「何もしないことも含む」

一 言

新任のご挨拶

岡崎 龍史

(産業医科大学 産業生態科学研究所
放射線健康医学研究室 教授)

平成25年4月1日付けで産業医科大学産業生態科学研究所放射線健康医学研究室の教授に就任致しました。岡崎龍史と申します。日本産業衛生学会九州地方会の皆様に、この紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

平成2年に産業医科大学を7回生として卒業し、同大学整形外

科に入局し臨床の道を歩んでおりましたが、平成4年産業医科大学大学院を医学部放射線衛生学で過ごした縁から、放射線基礎医学研究の道へと転換しました。とは言え、大学院時代は変性軟骨の研究をしていましたので、放射線の研究を始めたのは、平成10年産業医科大学医学部放射線衛生学の助手として採用されてしばらくしてからのことです。採用当初は電磁場の胎児影響の研究と変性軟骨の研究をしていました。平成14年4月からアメリカノースカロライナ州にある国立環境健康科学研究所 (NIEHS) に留学し、NSAID Activated Gene (NAG1) のトランスジェニックマウスの作製をすると同時に、放射線照射によるp53遺伝子とNAG1の発現についての研究を行ってきました。平成15年12月産業医科大学医学部放射線衛生学に復職し、平成16年12月より講師となりましたが、残念なことに医学部の基礎講座を3つ減らすことが決まりました。教授が退職する順番ということで、放射線衛生学はその一つであり、将来のない講座となってしまいました。

不幸にも平成23年3月に東京電力福島第一原発事故が起り、放射性物質が拡散し、放射線に関する関心が世の中で広まりました。事故後即、産業医科大学のホームページに「一般向け緊急被曝ガイド (放射線学入門)」を立ち上げて、放射線の基礎から福島で起こりうる放射線影響など紹介していきました。また書籍「図説放射線学入門-基礎から学ぶ緊急被曝ガイド」を発刊しました。たくさんの方にご利用頂き、感謝しております。産業医科大学から福島原発に医師を派遣することが決まり、放射線教育を全派遣医師に対して行いました。さらに大学として、福島原発事故に伴う廃炉作業やその周辺の除染等の作業における放射線業務従事者等に対する総合的な労働衛生対策を行う目的で、平成24年4月から放射線健康医学研究室を新設することとなり、実際に稼働したのは私が就任してからです。初年度は、ウクライナ (チェルノブイリ原発) 視察、福岡初のホールボディカウンター設置、基礎研究及び教育

等、あっという間に過ぎてしまいました。平成25年9月に准教授、平成26年4月に助教とスタッフが揃い、本格的な稼働はこれからです。

海上保安庁や福岡県警に対し、放射線教育と緊急時対応の実習をさせて頂いております。平成26年8月には「大規模災害における救命救急に関する講習会」と称して、産業医科大学が福島原発事故対応で培ってきたことを、放射線 (N)、生物兵器 (B)、化学兵器 (C) 災害に対処できるように福岡県警、消防、海上保安庁等を対象に行っていきます。80医学部のうち、放射線基礎医学講座がある医学部は8医学部しかなく、うちこの2-3年で教授が定年退職される3校あり、放射線基礎医学の存続が危ぶまれています。産業生態科学研究所ですが、医学部と連携しながら、医学部における放射線教育の充実を図りつつ、福島原発のみならず労働者の被曝管理あるいは低線量長期被曝影響の基礎研究等を行っていきたくと考えています。皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

自己紹介

兼板 佳孝

(大分大学医学部公衆衛生 疫学講座 教授)



私は、平成24年9月1日付けで大分大学医学部公衆衛生・疫学講座に着任致しました。誌面をお借りして、私と講座の紹介をさせて頂きます。私は、平成4年3月に日本大学医学部を卒業し、当初は内科臨床医の道に進みました。広く内科一般を研修する傍ら、専門分野としては、血液内科の臨床

と研究に従事し、学位論文のテーマも悪性リンパ腫の遺伝子異常に関するものでした。大学院4年生の時に、東京大学医科学研究所病理学研究部に国内留学する機会が得られ、そこで研究の面白味に触れ、また、医学研究の創造性に魅了され、将来は研究教育職に就きたいと考えるようになりました。

そのような考えを有していたところ、平成15年に内科医局内で定められていた関連病院への出張を終えた時点で日本大学医学部公衆衛生学教室から助手就任の誘いを受け、異動することになりました。学生時代には、離島の無医村におけるボランティア活動に学生スタッフとして参加していたため、その事務局であった公衆衛生学教室は特別に馴染みの深い講座でありました。公衆衛生学教室に異動してからは、日本人の睡眠習慣や喫煙習慣を研究のテーマにして疫学研究を行って参りました。特に、睡眠習慣につきましては、「睡眠時間や不眠症状とうつとの関連性」、「睡眠障害と生活習慣病」などに興味を持ち、これらに関する疫学研究成果を報告して参りました。行政にかかわる仕事と

しましては、健康日本21の評価委員を務め、最近では、健康日本21（第2次）のなかで改定された「健康づくりのための睡眠指針2014」の策定に参加させて頂きました。産業保健領域におきましても睡眠の問題は極めて重要であり、今後は労働者を対象に睡眠疫学研究、特に介入研究に力を注いで参りたいと考えております。

これまでに私は、食品工場、製薬企業の工場、広告会社、運送会社、新聞社、建設業などの嘱託産業医を経験しており、現在でも数社の事業所の嘱託産業医を務めております。また、大分県産業保健総合支援センターの相談員や産業医研修会講師を務めております。東京の事業所に比べまして、地方では、まだまだ産業保健に対する認識が遅れているように感じております。私自身は微力ではありますが、関係者の皆様と協力しながら地域の産業保健の充実に少しでも貢献できましたら幸いと考えております。

大分大学医学部公衆衛生・疫学講座は、かつては「公衆・衛生医学講座第1」と称し、初代に荒記俊一教授（昭和57年1月着任）、2代目に小澤秀樹教授（昭和63年1月着任）、3代目に牧野芳大教授（平成12年6月着任）が担当され、私が4代目の教授となります。大分大学では、長らく三角順一教授が産業保健を担当されてきましたが、三角教授の教室は、環境・予防医学講座（旧 公衆・衛生医学講座第2）であります。三角教授の後任の教授が産業保健を専門としていないため、現在では私が三角教授のご指導を賜りながら学内の産業保健を担当させて頂いております。

着任して2年が経過するところでありますが、研究資金の確保、スタッフや大学院生の確保、研究協力者の確保と少しずつ講座の体制を整えている最中であります。まだまだ力不足ではありますが、地方会の活動につきましても参加させて頂き、少しでも本会の発展に寄与できましたら幸いと考えております。今後とも宜しくご指導・ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

産業医科大学教授就任のご挨拶 — 産業衛生領域での新たな研究に向けて —

佐藤 実

（産業医科大学産業保健学部 成人老年看護学講座 教授）



平成25年7月1日付けで、産業医科大学産業保健学部成人老年看護学講座の教授に就任いたしましたのでご挨拶させていただきます。

私は小学校6年の時に東京から岩手県盛岡市に引っ越し、中学、高校、大学まで過ごしました。岩手医科大学医学部卒業後、慶応義

塾大学および関連病院で内科医、膠原病専門医として10年ほど臨床、研究に携わり学位取得後1991年に米国留学しました。2年間の予定でしたが、新しいマウスの自己免疫モデルを発見したことなどから帰国する時期を逃し、ノースカロライナ大学チャペルヒル校に8年半、フロリダ大学に14年と計22年間、米国で過ごしてしまいました。私は岩手県人ですので、まさか北九州で勤務するようになると思ってもみませんでした。産業医大に就任させて頂きましたのもノースカロライナ大学留学中に、産業医科大学から米国国立環境衛生研究所（NIEHS）に留学されていた先生と知り合い、また別の産業医大出身の先生がフロリダ大学に移ってから私の研究室に留学して来て下さったというご縁でした。どこでどう結びつくかわからない、人のつながりというのは本当に有り難いことと感じております。帰国して1年が過ぎ、さすがに車を運転していて右側を走ってしまうことはなくなりましたが、ちょっと油断していると右折左折時にワイパーを動かして笑ってしまうことはまだしばしばあり、無意識の行動習慣はなかなか変わらないものだと感じます。日米の文化習慣の違いに加えて22年間のギャップは大きく、日本の生活、大学での慣習の違いに戸惑うことも多々ありますが、皆様にたいへん暖かく迎えていただき徐々に日本の生活に慣れてきています。

30年ほどの研究生活を通じ、膠原病の自己抗体の臨床的意義およびその産生機序、特に化学物質、環境因子の役割を主要研究テーマとしてきました。チャペルヒル時代に発見した正常マウスへの鉍物油成分投与による自己免疫疾患は、化学物質による新たなモデルとして広く使われるようになりました。この研究から発展したノルウェーとの共同研究では、養殖サケに鉍物油アジュバントを用いたワクチン接種による自己免疫疾患が高頻度にみられることを報告し、養殖魚の質、食の安全において注目されました。メキシコの膠原病内科医のグループとは、美容目的で鉍物油を注射して炎症性リウマチ性疾患を発症した患者での自己抗体、臨床症状を分析しています。ヒトの労働環境における鉍物油曝露と自己免疫の関連についても、九州地区内で共同研究の体制を整えているところです。化学物質曝露と自己免疫の関連は十分な研究がなされていない分野ですので産業医大、産業保健学部の特性を生かして本邦における産業衛生、環境衛生領域での自己免疫疾患の研究体制を確立することを目標に研究を進めたいと考えています。今まで、免疫学、膠原病学のみならず肝臓病学、腫瘍学、ウイルス学、公衆衛生学、農学部、獣医学部の研究者と幅広く共同研究、交流を行って来ていますが、今後もアメリカ、ヨーロッパ、日本などの共同研究網を生かし、幅広く研究を続けるつもりです。

今後、産業衛生学会員の方々との交流も増えることと思います。今後ともご指導ご鞭撻賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

部 会 報 告

産業衛生技術部会の活動報告

産業衛生技術部会幹事 伊藤 昭 好
(産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科)

産業衛生技術部会は、全国レベルの活動として、本年5月に岡山で開催された第87回産業衛生学会において産業衛生技術フォーラム(テーマ:作業環境管理におけるリスクコミュニケーション)を開催しました。また産業衛生技術部会で設けた「個人ばく露測定に関する委員会」の報告として、シンポジウム「個人ばく露測定の実施のためのガイド」も企画しました。これらのイベントを通じて、今後、現場の化学物質管理において、高度な知識と能力を持った産業衛生技術専門職が求められることを痛感させられました。

各地方会単位でも、独自に研修会等の企画運営を進めています。九州地方会では、産業医科大学で開催された平成26年度日本産業衛生学会九州地方会学会に合わせて6月21日に自由集会を開催しました(写真参照)。今回は岡山の学会で取り上げられた内容に関連して「これからの産業衛生技術職に求められるもの」をメインテーマとしたミニシンポを企画しました。まず前述の「個人ばく露測定に関する委員会」のメンバーとして尽力された産業医科大学産業保健学部環境マネジメント学科の保利一先生に、「個人曝露濃度測定・評価導入で求められる人材と能力」と題した基調報告をいただいた後、現役若手の作業環境測定士、衛生管理者の方々から、ご自身の現在の課題と将来像を語っていただきました。講師は、吉永次郎氏(福岡労働衛生研究所)、青木隆昌氏(熊本大学運営基盤管理部)、河野亮氏(三井化学株式会社岩国大竹工場)、嶋田由華氏(株式会社アサヒテクノリサーチ)の4名の方々です。当日の参加者は25名で、活発な議論は、引き続き開催された交流会の中でも継続され有意義な一日となりました。

なお来たる9月には、金沢で開催される産業医・産業看護全国協議会の会期中に、同じ会場で第23回産業衛生技



術部会大会開催を予定しております。この他、産業衛生技術専門研修会をフォーラムや大会開催時に合わせて、年2回開催しております。

産業看護部会活動報告

門 田 美 紀 子
(榊竹中工務店 九州支店)

平成26年1月18日福岡県中小企業振興センターにおいて、産業看護研究会を開催しました。今回のテーマは「メンタルヘルス3次予防からの脱却・アルコール問題の最近の動向と職域への展開」として、アルコール問題の早期介入パッケージ～HAPPYプログラム～について独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター院長の杠 岳文(ゆずりは たけふみ)先生を講師に御招きし、御講義いただきました。参加者は37名でした。アルコール飲料は純アルコール約10gを1ドリンクという単位で呼ぶことや、アルコール健康障害対策基本法の認知度について紹介され、アルコール問題の早期介入の概要について説明があり、その重要性についての講義がありました。



HAPPYプログラムとは、健康被害の危惧される多量飲酒者に飲酒問題の評価を行い、教育と適切な早期介入・指導を行うための教材とプログラムであり、アルコール依存症が疑われるものを早期に専門医療機関受診につなげることもできます。アルコール医療の専門家でなくても、医師・保健師・栄養士など幅広い職種の方が平易に使用できる教材とプログラムになっているとのことでした。講義後は、肥前精神医療センターのHAPPYプログラム講座の受講経験者である西日本シティ銀行の山下珠美先生や、中尾労働コンサルタント事務所ワーク&ヘルスの中尾由美先生に、企業内でのHAPPYプログラムの展開事例や講座を受講した感想などを発表していただきました。企業の中でもアルコール問題は根深く、表面化しにくいと、一人で迷い悩んでいる社員も多く、日ごろ従業員に接している産業保健師が早期に介入し、一緒にお酒の飲み方を見直す機会が持てることは、飲酒問題の対応としてはとても重要なことだ

と感じました。

次に、6月21日の日本産業衛生学会九州地方会学会において自由集会を開催いたしました。「産業看護部会懇談会」と題して、現在検討が進められている産業看護専門職に関する新たな制度について住徳松子理事より説明をいただき、参加者からの質疑や意見交換が活発に行われました。学会2日目の最後の時間にもかかわらず、日頃から熱心に活動をされている保健師12名の方の参加をいただきました。平成27年度には現行の「登録産業看護師制度」から「産業保健看護専門家（保健師）・産業保健看護専門家（看護師）制度」と呼称が変更され、継続教育ラダーが新たに作られることなどの報告がありました。

現行の登録産業看護師制度はこの新制度をもって失効され、現行の制度に登録されている方は、新たな制度への移行が必要となります。その為には、日本産業衛生学会の会員であることが必須です。今後この制度についての決定事項は、産業看護部会ホームページに情報提供されていきます。産業看護職の皆さんも産業看護師教育制度の過渡期の波に乗り遅れないように、ホームページの情報をチェックしながら、この制度についての動向を見ていきましょう。

産業医部会活動報告

九州産業医部会部会長 小田原 努
(ヘルスサポートセンター鹿児島)



日本産業衛生学会九州地方会の皆様にはいつもお世話になっております。現在九州産業医部会の部会長を担当しております小田原と申します。

九州産業医部会は、本年度より正式に九州地方会の下部組織となりました。従来日本産業衛生学会には、産業医部会、産業歯科保健

部会、産業看護部会、産業衛生技術部会の四部会があり、各部会に幹事会があり、そこで活動の骨子を決定し各地方部会で展開して活動しておりました。例えば、産業医部会では労務学会との連携を行うことを幹事会で決定し、各地方会医部会で展開することとし、平成24年度に九州産業医部会でも労務学会九州部会とのシンポジウムを行っております。今後もその流れは継続しつつも、九州地方会と意志の疎通や連携を行いながら活動を展開していく予定です。

九州産業医部会は従来、健康管理研究会と称して、冬季に研修会をおこなってまいりました。九州産業医部会が形成される以前に、九州の産業医の研究会として健康管理研究会が活動していたのですが、九州産業医部会が形成されるメンバーもほぼ重なることから、実質的に健康管理研究会の活動は平成16年に休止し、以後九州産業医部会が主催

する健康管理研究会の研修会が開催されていまして。ところが、活動の主体が明確でない等の内部の意見もあり、平成25年度より健康管理研修会の名称は廃止し、産業医部会研修会として開催されるようになっております。平成25年度は、熊本大学の加藤先生と株式会社 SUMCO 健康管理センター 彌富美奈子先生をお招きし、「遺伝子研究の産業保健現場への応用」というテーマで講演会を行いました。また最後に鹿児島大学の堀内正久先生に司会をお願いして総合討論も行いました。気が付かない間に身近な所で遺伝子検査が行われている実態も知り、また今後の産業保健分野への応用の可能性も知ることとなり、改めて遺伝子検査の意義を問い直す良い機会となったと思います。

平成26年度も2月頃に研修会を予定しております。できるだけタイムリーな話題を検討していきますので、多くの方のご参加をお願いいたします。

産業歯科保健部会報告

産業歯科保健部会幹事 山本良子
(日本予防医学協会 九州事業部)

去る5月、岡山で開催された総会のシンポジウムでは、「これからの健康科学」～産業保健におけるダイバーシティ・マネジメント戦略～をテーマに開催されました。今回は部会幹事が惚れ惚れ込んで口説き落とすという英語落語にジャズボーカルなど幅広く活躍されている馬越恵美子先生（桜美林大学）に「今、日本に求められるダイバーシティ・マネジメント」をご講演いただき巧みな話術に会場は湧きました。社会派で注目株の相田潤先生（東北大学）には、「健康の社会的決定要因から考えるダイバーシティ・マネジメント戦略」Social determinantsに関する社会疫学研究や歯科疾患の格差についてお話いただき、池邊一典先生（大阪大学）には、「高齢者の口腔機能と全身の運動機能との関連」について。看護の立場からは栗岡住子先生（産業医科大学）「ダイバーシティ・マネジメントを支援する産業看護活動」について、女性の働く環境や長時間労働など具体的な事例でご講演いただき理解を深めることが出来ました。

口腔癌をテーマにした研修会では、口腔ガンの危険因子として喫煙と過度のアルコールが挙げられるが、アルコールを含む洗口剤もガンの危険性が指摘されており、ヨーロッパでは売られていないそうです。日本では多くの洗口剤にエタノールが含まれているので注意が必要であることが話されました。その他働く女性に焦点を当てたフォーラムも開催されました。

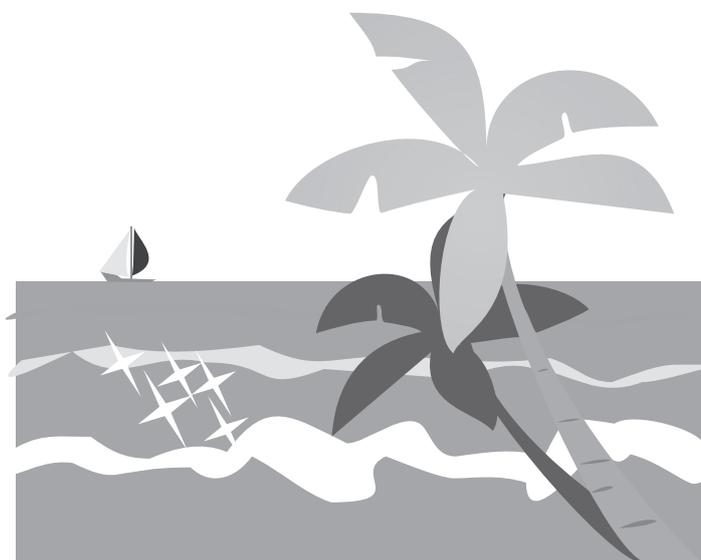
秋の金沢、第24回産業医・産業看護全国協議会では、労働者の生活習慣病・全身の健康と歯科疾患をテーマにシンポジウムを開催します。「労働者の生活習慣病と歯科疾患との関連について」福田 雅臣先生（日本大学歯学部）

にお話いただき、「循環器疾患と歯周病」は岩井 武尚先生（医療法人慶友会つくば血管センター NPO 法人バージャー病研究所）。「糖尿病と歯周病」については、片桐 さやか先生（東京医科歯科大学）にご講演いただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

歯科保健部会の幹事で四国地方会の部会長である岡本愛子先生が、信じられないことに突如ご逝去されました。6 月中旬のことです。冒頭で触れた今回のシンポジウムの講師を口説き落としたのは岡本先生でした。最後まで本学会を気にかけて責任感に溢れた先生でした。何事にも熱意を持たれ、MY ヘルメットと MY 安全靴を持参しての気合の入った職場巡視研修では、誰よりも様になっていたお姿が思い返されます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



故 岡本愛子先生
2011年協議会 in 福岡 歯科保健部会懇親会にて



学会報告

平成26年度 九州地方会学会のご報告

堀江正知

(産業医科大学 産業生態科学研究所
産業保健管理学研究室)

平成26年6月20日(金)午後及び21日(土)午前にかけて、平成26年度九州地方会学会を産業医科大学のラマツィーニホールで開催しました。同ホールの利用は、昭和58年(大会長：土屋健三郎先生)、平成5年(同、児玉泰先生)、平成10年(同、大久保利晃先生)、平成20年(同、川本俊弘先生)につづき5回目となりました。ちょうどラマツィーニ先生の没後300周年に当たる年の開催となりました。九州地方会長の加藤貴彦先生、本部副理事長の東敏昭先生、同理事の住徳松子先生をはじめ九州・沖縄から計138名(うち会員128名)に参加いただきました。幸い、学会開催期間中を通じて薄曇りで25℃前後の過ごしやすい天候に恵まれました。

一般口演では、職業性疾患のバイオマーカー、放射線管理、口腔保健、メンタルヘルス、専門職教育など多岐にわたる21演題(県別発表数：福岡13、佐賀1、熊本1、宮崎3、鹿児島2、沖縄1)の研究発表を出席者全員で聞き、活発な議論を交わしました。

特別講演では、ハローキティ3代目デザイナーとして株式会社サンリオの再興に貢献された山口裕子氏に、「Happiness is…」という演題で、30年以上にわたるハローキティのデザインにかけた想いを自らの生い立ちに織り重ねながら語っていただきました。講演終了後、皆で記念写真に収まりました。

教育講演では、産業医科大学人間工学研究室内の藤木通弘先生に「産業保健スタッフのための睡眠の基礎知識」とい

う演題で、睡眠時無呼吸症候群が循環器疾患のリスクであること、むずむず脚症候群がフェリチン濃度やドーパミンと関係することなど睡眠に関する最新の知見と就業者向けの対策をわかりやすく講義いただきました。この講演には、日本医師会の産業医学研修会(生涯研修)と日本産業衛生学会産業看護職継続教育カリキュラム(実力アップコース)の単位認定をいただきました。



懇親会は、計70名にご参加いただきました。大型バス2台に分乗して遠賀郡岡垣町の「ぶどうの樹」まで移動して、児玉泰先生による乾杯のご発声で、美味しい料理とこだわりの銘酒を堪能しながら相互の親睦を深めました。

今回の学会は、(公財)西日本産業貿易コンベンション協会及び(一財)産栄会からの助成をいただきました。一方、企業によるランチョンセミナーは行わず広告や寄付もいただきませんでした。学会参加費と懇親会費を値下げしましたが、メーリングリスト等を利用した事前案内、看板や掲示物の作成、会場の設営、当日の運営、経理といった業務については井上仁郎事務局長をはじめとする当研究室12名で賄うことによって予算内で対処できました。

ご参加いただいた皆様に、楽しい思い出と新たな活力をお届けできたこととしたら、事務局一同、幸せです。ありがとうございました。



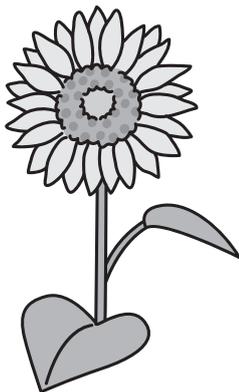
理事会報告**平成26年度
第1回九州地方会理事会報告**

平成26年度第1回理事会が、平成26年6月20日(金)13:00~14:00に産業医科大学 ラマツィーニホール1階会議室にて開催されました。

主な議題は以下の通りです。

- 1) 平成25年度第2回理事会議事録要旨について
- 2) 平成25年度事業・決算報告について
- 3) 平成26年度事業計画・予算案について
- 4) 平成27年度地方会学会の開催について
- 5) 平成28年度地方会学会の開催地について
- 6) 平成26年度地方会学会選挙管理委員会について
- 7) 名誉会員、功労賞 候補者について
- 8) その他

なお、平成27年度九州地方会学会に関しましては、平成27年7月11日(土)・12日(日)に、鹿児島県医師会館にて、鹿児島大学 堀内正久教授を学会長として実施することが報告されました。

**学会案内****平成27年度九州地方会学会
(鹿児島)のお知らせ**

堀内正久

(鹿児島大学 衛生学・健康増進医学)

来年度の日本産業衛生学会九州地方会学会を担当させていただきます鹿児島大学の堀内です。会期は、平成27年7月11日(土)の午後から12日(日)午前を予定しています。会期が例年と異なり、土日開催となっていますので、ご注意をいただければと思います。会場は、鹿児島中央駅から徒歩5分程度の鹿児島県医師会館を予定しています。九州新幹線が全線開通し、九州の各県庁所在地から、3時間程度で、鹿児島に来られるようになりました。利便性が高まり日帰りも可能な状況ですが、是非、1泊2日のスケジュールで、ゆっくりと鹿児島にてお過ごしをいただければと思います。

内容は、ミニシンポジウムとして「鹿児島県産業保健の現場の声(仮題)」を行いたいと考えています。これは、「なるべく現場の状況を学会員が知るべきである」との本年度の地方会総会で出されたご意見に対する、取り組みとお考えいただければと思います。また、特別講演としては、「特殊環境下での健康管理からの学び」ということで、南極医療隊員としてご活躍された宮田敬博医師(指宿市)のご講演を予定しています。ビデオを駆使した臨場感あふれるお話で、閉鎖環境下でのメンタルヘルス問題からアスベスト問題まで、幅の広いお話を聞くことができるかと思えます。教育講演は、健診データとレセプトデータの対合から見えてくる個人の健康管理について、ご専門の先生からご講演をいただく予定です。

7月中旬は、例年ならば、梅雨明け時期に相当します。南国の太陽のもと皆様方にお集まりいただき、産業保健の学びを深めることができればと思います。懇親会では、鹿児島ならではの郷土文化である島唄の披露を考えています。島唄は、郷土文化としての民謡という面だけでなく労働歌という側面もあるとのこと。

お忙しい時期とは思いますが、皆様方の奮ってのご参加をお願いする次第です。来年の7月、鹿児島にて皆様方にお会いできますことを教室員一同、心より願っております。

九州地方会代議員候補者の推薦について(お願い)



九州地方会選挙管理委員会 委員長 市場 正良
(佐賀大学 医学部)

本年度は、2年ごとに実施している選挙の年になっています。

標記について、以下の要領で推薦を受け付けます。

九州地方会正会員から、代議員候補者を10名以内の範囲でご推薦ください。

自薦も可能です。

候補者氏名、推薦者氏名、日付を明記した用紙を各自で作成(書式は問いません)の上、下記事務局まで、①郵送、②FAX、③電子メール、④直接持参のいずれかの方法でご提出ください。締め切りは9月11日(木)(必着)とさせていただきます。

事務局の確認後3日以内に受け取りの連絡を差し上げますので、連絡先(FAXまたは電子メールアドレス)も明記してください。

なお、地方会長、地方会理事の推薦を行うものではありませんので、ご注意ください。

今後は、代議員候補の確定後、以下の予定で、代議員、九州地方会長、九州地方会理事の選出を進めます。

9月11日 代議員候補の確定

9月20日頃 投票用紙類発送

10月5日(必着) 投票締め切り

10月22日 各新役員の確定、本部に報告

〒807-8555

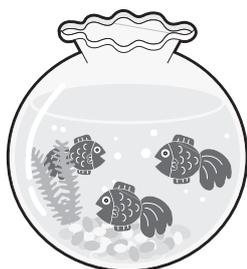
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1

産業医科大学 産業医実務研修センター

電話 093-691-7171

ファックス 093-603-2155

E-mail : j-knsy3f@mbox.med.uoeh-u.ac.jp



2年に1度の役員選挙の年です。従来は、3年に1度でしたが、法人に関する法律の改正で2年ごとになったようです。時間と経費が掛かるのに、何のためでしょうか。しかも、国政選挙と同じで投票率は高くありません。前回は、30%でした。多くの会員にとっては、誰に入れればいいかわからない。お任せしますという選挙かもしれません。学会は、産業衛生学の発展のための組織です。誰かが、運営しなければいけません。会費も払っています。自分たちの会費が、有効に使われているかどうか、2年に1度、考えるための機会です。皆さん投票に参加してね。

(選管委員長)

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 平成26年9月1日

編集正責任者：加藤 貴彦(熊本大学)

編集副責任者：市場 正良(佐賀大学)

編集委員：青木 一雄(琉球大学)

青柳 潔(長崎大学)

石竹 達也(久留米大学)

黒田 嘉紀(宮崎大学)

佐土原浩子(九州電力 大分支店)

住徳 松子(アサヒビール(株)博多工場)

堀内 正久(鹿児島大学)

大和 浩(産業医科大学)

(五十音順)

(編集事務局連絡先)

〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1

熊本大学大学院生命科学研究部

公衆衛生学分野(担当：西村)

TEL(096)373-5112 FAX(096)373-5113

E-mail: k-public@kumamoto-u.ac.jp